

事業実績報告①

団 体 名	杉並まちづくり交流協会
代 表 者 ・ 連 絡 先 (住所・Tel・Fax 等)	荻本 和利 〒168-0081 杉並区宮前3-22-16 電話 03-3335-5141 / 090-6829-1461
活 動 テ ー マ	まちはく 2022 の企画・運営
団 体 紹 介	<p>当協会は、毎年年度末に開催する「まちはく」（旧まちづくり博覧会）とまちづくりサロンの二つの事業を中心として活動を進めています。</p> <p>「まちはく」は、まちづくり活動団体同士の情報交換の場として交流を深め、だれもが暮らしやすく、愛着の持てる居心地の良いまちづくりにつなげていくことともに考え連携することを目的としています。</p> <p>区民参加の「まちづくり」を目指し活動団体が情報を発信、杉並をあらためて理解し発見するイベントです。まちづくりに欠かせないテーマとして「福祉」や「防災」、「楽しいまちづくり」についても継続的に取り組んでいます。</p> <p>第25回は2022年3/6に産業商工開会を会場として開催しました。テーマは「思い×つながり＝まちづくり」参加団体35団体、参加者は述べ約270名の来場者がありました。先行展示として7団体の展示を行い、また3/5には「未来型のユニバーサルコンビニをテーマに講義（星川安之氏）とワークショップを行いました。3/6には新しい団体を応援する内容の交流会を行いました。（詳細は次ページ）</p> <p>第24回は「リンク・コロナ禍の中のつながり」をテーマに同時期に産業商工会館で開催しました。コロナ禍に関わらず、多くの方々の参加をいただきました。</p>

事業実績報告②

団体名 杉並まちづくり交流協会

活動記録 年 月	令和3年4月1日～令和4年3月31日の活動内容を記入してください。 ただし、提出日から令和4年3月31日までは <u>予定</u> を記入してください。
2021. 4 月 ～2022 年 2 月	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月第 1 金曜日の午後 7 時から定例会を開催 ・ 6 月定例会では総会を開催 ・ 7 月定例会では次の「まちはく 2022」の実行委員長、副実行委員長を決定した。委員長：門倉 誠、副委員長：福本加月美・菅原勇也 ・ 8 月以降の定例会では、主に次回まちはくのテーマ、内容について検討を進めた。
10 月 23 日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 9/ まちづくり助成金の中間報告会に参加 ・ 10/23 「できる。できない。じゃない、やってみるんだ展」に協力し色弱体験まち歩きを実施。協力：カラーユニバーサルデザイン機構（同団体と協力してのまち歩きは 2 回目）
11 月 12 月	<ul style="list-style-type: none"> ・まちはく 2022 のテーマ決定「想い×つながり＝まちづくり」 ・本年は、より実際の街とのつながりを重視する企画とすることとした。 ・まちはく 2022 の参加募集要項の配布、1 月中旬目途に参加団体募集
1 月 2 月 10 日 3 月 4 日 3 月 5 日	<ul style="list-style-type: none"> ・まちはく 2022 チラシデザイン制作・配布 ・まちはく 2022 説明会（産業商工会館とリモートの併用） ・まちはく 2022 先行展示を開始（産業商工会館：展示場）7 団体 ・まちはく 2022 「未来型ユニバーサルコンビニ」をテーマとしたワークショップの開催。（講師：共用品推進機構専務理事 星川安之氏）22 名の参加。講義の後、5 グループに分かれてWSを進め、発表。様々なコンビニのスタイルが提案されて、とても興味深いWSとなった。
3 月 6 日	<ul style="list-style-type: none"> ・本開催。1 部（主に展示・WS）：10 時～14 時 30 分、2 部：15 時～17 時（阿佐谷の逸品紹介、まちづくりレシピを使った団体交流会） 参加団体：35 団体、参加・来場者：延べ約 270 名、団体交流会参加者約 38 名。 ・今回の団体交流会では、主に設立 2～3 年の団体やまちはく初参加の団体を対象に、先輩団体がいろいろとアドバイス（あるいはおせっかい）をしながら新しいつながりは活動の芽を探る交流会としました。 ・昨年「ねるとん交流会」以上の短時間ではあるが密なディスカスができたという評価もいただいています。
3 月 11 日	<ul style="list-style-type: none"> ・協働プラザ主催の「団体交流会」に参加。（荻本）まちはく 2022 の紹介・説明と今後。企画していきたい活動についてプレゼン。 ・視覚障がい者を考慮した街づくりを進める NPO、JR 高架下を活用を進めている JR 東日本などいくつかの団体との連携について前向きな話し合いをすることができた。私たちが行ったまちはくでの WS の方法に関心を持ってくれた団体があったことも嬉しい。

今後の活動の予定と抱負

① 「まちはく」について

- ・今回、街との関わり、つながりをもとうということで、「阿佐谷の逸品」を行った。6つの逸品（これだけではないと思うが）を選出し、選者が紹介して参加者が投票するという企画は、商品の成り立ちやお店の姿勢などにも触れることができ興味深かった。「まちサロ」などでも企画して、継続したいと思います。
 - ・昨年以來、団体交流会は趣向を凝らした内容で、団体のつながりができる工夫を私たちに企画を進めてきました。本年は、設立間もない団体やまちはく初参加の団体にスポットをあてることとし、また、まちづくりを料理のレシピに例えてディスカッションを進めました。想定通りに行けなかったところもありますが、皆さん楽しみながら、各団体の強味を紹介しながら、若い団体へアドバイスをしてくれた交流会になったことと思います。組上にのった5団体に熱意があり、それが参加者にも伝わったことがとても大きかったと思います。
- 次回以降も、交流の方法も工夫をしていしながら、団体交流を進めていきたいと思ひます。

② 街とつながり街を考える企画について

- ・「阿佐谷の逸品」は、街とつながる一つの企画でしたが、街とつながるための活動については、今後も検討していきたい課題です。街に住む人々や団体から街を学ぶ「街ゼミ」なども一つの方法として考えられると思ひます。交流協会としての取り組み方を検討していきたいと思ひます。
- ・3/5のワークショップは「未来のユニバーサルコンビニ」というテーマで展開しました。今後の「共生社会」に向けての街の課題をはじめ、多くの示唆を得ることができたワークショップであったと思ひます。団体のニーズや抱える課題について、このようにワークショップを行いながら参加者で考える、また提案するというワークはとても有効であることを改めて認識いたしました。団体との協力・連携をとりながら進めていきたいと思ひます。
- ・先日、すぎなみ協働プラザ主催の「団体交流会」に参加しました。いくつかの団体から、このワークショップを行いながらの課題発見・提案を試みてみたいという要望をもらいました。来期の上半期中には、1~2つでも実施したいと思ひます。

③ 「まちサロ」(まちづくりサロン)について

- ・まちサロは、まちはくにつながる団体交流の場として位置づけ、開催してきました。次年度は本年度のまちづくりレシピの成果や組上にあがった団体の活動に連携・協力するようなかたちで進めることも一案と考えています。
- ・上記のような取り組み方を考えれば、助成金採択団体とそのニーズに合うような企画・運営を進めるというものです。

収支内訳書

団体名 杉並まちづくり交流協会

【収入】

費目	金額	備考
会費	16500 円	¥500×33 団体(まちはく参加費)
まちづくり助成金	70000 円	
その他	円	
合計	86500 円	

【支出】 ※(1)～(3)は必ず領収書を添付してください。

費用	内容	金額	合計金額
(1) 学習活動費	講師謝礼(星川氏)	20000	39918
	会場費(定例会・準備作業)	3000	
	Wifi レンタル代	13618	
	阿佐谷マップ代	3300	
(2) 広報活動費	ちらし制作費・印刷費	48202	49402
	ポスター印刷費	1200	
(3) 事務運営 ・事業実施費	上質紙代	770	770
(4) その他	行事保険	1800	1800
合計			91890

- (1) 学習活動費 : 講師謝礼、学習会資料作成費、会場使用料など
 (2) 広報活動費 : パンフレットやニュース、報告書等の作成費など
 (3) 事務運営 : 団体運営や事業実施に必要な消耗品や備品の購入費、郵送料など
 ・事業実施費
 (4) その他 : その他の支出(助成対象外経費)

まちはく2022 展示風景



まちはく2022 展示風景

